

事業実施計画書
(中東情勢枠)

☒ 法人
☐ 個人事業主

1 実施主体の概要 ウェブ申請の方は※印の箇所の記入は必要ありません。

企業名	株式会社		
住所 (※)	(〒 -) 北九州市小倉北区城内 -		
(フリガナ) 代表者名 (※)	姓 (キタクウ) 北九	名 (タロウ) 太郎	
業種 (※)	☐ 製造業 ☒ 建設業 ☐ 運輸業 ☐ 卸売業 ☐ 小売業 ☐ 宿泊・観光業 ☐ 飲食業 ☐ 理美容業 ☐ その他 ()		
資本金・出資金 (※)	千円	主な業種1つにチェック	
従業員数 (代表者を除く) (※)	人		
(フリガナ) 担当者職・氏名 (※)	(キタクウ タロウ) 代表 北九 太郎		
電話番号・ファクシミリ (※)	(電 話) 093 - - (FAX) 093 - -		
担当者メールアドレス (※)	@.co.jp		
誓約事項 ※誓約する場合は、各項目の誓約欄に○を記載すること。 ※必ず、全項目、確認すること。	提出にあたり、以下の事項について確認し、相違ないことを誓約します。		
	誓約	項目	
	○	宗教上の組織若しくは団体に該当しないこと。	
	○	現在において事業を実施していること。	
	○	市税の滞納その他の市に対する債務不履行がある等補助金の交付が適当でないと認められる者でないこと。	
	○	本書の記載内容及び提出書類について、不正や虚偽がないこと。	
	○	株式会社の場合にあっては、発行済の株式が中小企業者以外の会社により2分の1を超えて保有されていないこと。	
○	当該助成金と別に国、県、市もしくはこれらの関係団体又は民間団体による他の助成金等を受けている、又は受ける予定がないこと。		

2 売上総利益（以下「粗利」という）・「広義」の粗利の状況 ※粗利には限界利益・収益等を含む

比較方法を選択	☒ ①粗利での比較 ☐ ②広義の粗利での比較 ※上の比較方法を✓の上、下表に金額等記入。		
対象月	基準月	粗利	減少額（B－A）
令和8年3月以降で 選択した月の粗利額を記入	令和7年3月以降の同 月の粗利額を記入		
R 8 年 4 月 300,000 円 (A)	R 7 年 4 月 500,000 円 (B)		200,000 円
創業特例の歴用 ☐ 有 ※内容は公募要領P2を参照			

比較方法	算定方法
①粗利	売上高－売上原価（※1） ※1）売上原価＝月初棚卸高（在庫）＋仕入高（製造原価）－月末棚卸高（在庫）
②広義の粗利	売上高－売上原価－販管費のうち物価高騰の影響が認められる経費（※2） ※2）荷造り運賃費、水道光熱費、燃油関連経費（ガソリン代等で個別に管理されている場合に限る。）、その他販管費に計上されているが売上原価に類する経費であって物価高騰の影響が認められる経費（個別に管理されている場合に限る。）

※当年分の①粗利、②広義の粗利も実績額によることを原則とするが、対象月の月初・月末棚卸高が把握困難であれば、事業年度開始時の棚卸高（月初棚卸高）に変動がなかったものとして計算することができる。

3 事業の概要

事業期間	開始	令和 8 年 8 月 1 日 ※申請日と事業開始期間は1カ月程度開けてください	終了	令和 8 年 9 月 30 日 ※令和9年1月7日まで(事業に係る支払を含む)
------	----	--	----	--

4 事業費及び助成金の見込額

(1) 事業（取組）実施に必要な経費（支出）

実施区分	費目	経費概要	発注先／所在地	金額（消費税抜きの額）	合計額(A)
代替品	代替品の購入費	水性塗料の購入	●●/北九州市	1,000,000 円	2,500,000 円
調査・選定	委託費	専門家への調査依頼費	●●/北九州市	1,500,000 円	
【実施区分】複数区分選択可。区分ごとに記入 代替品、調査・選定、サプライチェーン、価格転嫁				円	
助成金の見込額 ※千円未満切り捨て					
助成対象経費合計額 (A) × 1 / 2 （上限額100万円）					1,000,000 円

(2) 資金計画 (収入)

区分	金額 (消費税抜きの額)	調達先
本助成金	1,000,000 円	公益財団法人北九州産業学術推進機構
自己資金	1,500,000 円	—
借入金	円	
その他 ()	円	
合計	2,500,000	(1) 合計額 (A) と同額

5 実施内容

取り組む区分すべてにチェック

実施区分 該当に✓	☒ 【代替品】 原油由来製品から原油由来外製品への代替 ☒ 【調査・選定】 代替品の調査・選定にかかる専門家への依頼 ☐ 【サプライチェーン】 サプライチェーンの見直しにかかる専門家への依頼 ☐ 【価格転嫁】 価格転嫁交渉にかかる専門家への依頼	
現在の事業 の実施内容	建築塗装業者として、戸建て住宅、マンション、および商業ビル等の外壁・屋根塗装を行っている。 助成事業に関する実施内容ではなく、会社として取り組んでいる事業全体の内容を記載 該当する影響すべてにチェック	
中東情勢による影響 該当に✓	☒ 原材料・部品の調達難 ☐ 燃料費・光熱費の上昇 ☐ 取引先からの受注減 ☐ その他 () ☐ 物流コストの上昇	
中東情勢による影響で 生じている課題	中東情勢の影響により、塗料の主原料である石油化学製品（合成樹脂、顔料、硬化剤など）や、希釈に不可欠な溶剤（シンナー等）の価格高騰および深刻な供給不足に直面している。	
原油高や原材料不足に対応するための取組内容	実施区分	取組内容
	代替品	従来の石油由来溶剤で希釈する塗料から、水を希釈剤とする「水性塗料」への代替を進め、安定した供給を実現する。
	調査・選定	石油由来溶剤から水性代替品への移行にあたり、自社単独での検証には限界があるため、専門家へ依頼し、代替材料の成分分析および耐久性試験を実施する。

(選択した 区分ごとに 詳細を記載)	サプライ チェーン	取組の内容（目的、方法、手段）を、各実施区分ごとに具体的に記載。 その際、「4 事業費及び助成金の見込額」で記載した経費概要についても詳しく記載。
	価格転嫁	
事業実施に よる効果 (見込)	・外部環境（原油価格・為替）に左右されない安定した原価管理体制を確立し、年間で約●●万円のコスト削減を実現する。 ・供給制限が深刻な溶剤系資材への依存から脱却し、供給が安定している水性塗料を主軸とすることで、材料不足を原因とする工期遅延や現場の稼働停止日数を●日に抑え、計画通りの売上を実現する。	